

まえはた
前畑 ひらいさん(陽明中3年)

困難挑む強い心学ぶ



私は「水星」という言葉にひかれて、この記事を選んだ。キラキラしていて神秘的だけど、どうしてこれが記事になったのだろうと素朴な思いが浮かんだ。

「水星は一体どんな存在なのだろう」。数十年の構想からようやく日本は初めてこの疑問に挑む。地球から水星までの7年、90億キロには探査機の起動制御や速度など、技術面で壮絶な困難が予想されている。苦戦しても慎重に進んでいく日本の姿に感心する。私はこの記事から、先の見えない存在でも挑む力強い心を学んだ。ごくわずかな光しか見えなくても、一歩ずつ進んでいけばいつかたどり着けるはずだ。「水星の存在」。それを知るには莫大な労力や費用、何よりの時間が必要だ。答えまで気が狂うほど長い。しかし茫漠なものに挑む勇敢さは日本の誇りになるはずだ。「必ず手に入れてみせる」。その強い意志を抱いて、行くこう、水星へ。

日本初 水星探査

長旅7年、謎を解明

構想21年 20日打ち上げ

水星探査計画「ベビコロンボ」の概要

- 打ち上げ: 2005年12月20日
- 水星に到着: 2015年2月
- 水星に到着: 2016年12月
- 水星に到着: 2019年2月
- 水星に到着: 2021年2月
- 水星に到着: 2025年12月
- 水星に到着: 2032年12月

主眼項目

- 水星はようやく夢の国になった。
- 内部はどんな世界になっているのか。